

インフォメーション・コーナー

会 告

○今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！2020” 応募締切 7月31日	80
○新刊「改訂6版 農業農村工学標準用語事典」の発刊	80
○学生会員入会時の特典～新刊の用語事典がセットで従来価格据置きです！～	81
○若手研究者育成のための「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	81
○学会誌掲載報文等によるCPD 通信教育の参加者募集！！	81
○2021年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6月30日	82
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	83
○農業農村工学会論文集投稿の手引きの一部改正	84
○農業農村工学会論文集におけるコレスポンディングオーサーの記載	84
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2018年7月から2020年6月までの編集事務局	85
○第75回中国四国支部講演会ならびに第44回地方講習会の開催（第1報）	86
農業農村工学会論文集 内容紹介	92
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」誌 最新号掲載論文紹介	93
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	95
学会記事	97

第88巻第6号予定

展望：農業水利施設に求められる補修・補強に関する技術について：武井一郎

小特集：農業水利施設の補修工法選定上の課題

報文：寒冷地の開水路における表面保護工法適用に際する一提案：西田真弓ほか

報文：腐食した鋼矢板水路の性能評価と補修対策：中井 雅ほか

報文：コンクリート開水路補修工法の性能照査に関する提案：上條達幸ほか

報文：施設の性能管理と補修・補強に関する問題と課題：浅野 勇ほか

報文：コンクリート開水路における無機系表面被覆工法の現場モニタリングの重要性：川邊翔平ほか

報文：開水路補修工法の追跡調査結果の分析および今後の課題：長谷川雄基ほか

技術レポート

北海道支部：河跡湖の水位変動を考慮した事業計画の策定：田村和杏ほか

東北支部：針生堰の設計と施工：南川 駿

関東支部：水田水管理システムの大規模な実証研究と普及に向けた課題：河村将雄

京都支部：市街地での用排水路工事施工における仮設計画の事例：中村真由ほか

中国四国支部：水管理施設の子局における突発的な事故と応急措置：渡邊寿延

九州沖縄支部：太陽光発電施設における発電規模の検討：親川和人

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2020年 8月25～28日	大会運営委員会	2020年度(第69回)農業農村工学会 大会講演会	Ⓟ	鹿児島市	87巻12号 88巻1,4号
2020年 10月22, 23日	中国四国支部	第75回講演会・第44回地方講習会	Ⓟ	高知市	88巻5号
2020年11月 11, 12日	京都支部	第77回支部研究発表会	Ⓟ	福井市	88巻4号
2020年11月 12, 13日	九州沖縄支部	令和2年度支部大会	Ⓟ	長崎市	88巻4号

今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！2020”

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. 応募締切 2020年7月31日(金)17:00
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 2020年度のテーマ 農業用水
4. 応募資格 なし(どなたでも応募できます)
5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタブを付けてアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。
7. 賞金 最優秀賞(1作品)2万円
優秀賞(2作品)各1万円
8. アップロード方法
 - ① 動画を作成する。
 - ② YouTubeにアップロードする(9. 参考資料を参照)。
 - ③ タグに3つのワード(jsidre2020, こりゃ映像, (農業用水))を入れる。
 - ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
 - ⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT(new-suido@jsidre.or.jp)宛にメールで送る。

入賞賞金をお渡しするのに必要な情報(氏名, 年齢, 性別, 所属, 連絡先, YouTube動画のURL)

9. 参考資料
 - ・YouTubeにPCから動画をアップロードする方法
<http://douga-tec.com/?p=4974>
 - ・スマホからYouTubeに動画をアップロードするには—Android入門
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>
- <参考>こりゃ映像2019 結果(テーマ:農業用水)
最優秀賞:津軽を潤す農業用水
弘前大学 森田七海
<https://www.youtube.com/watch?v=F1o4-UXFjG4&feature=share>
優秀賞:3匹のこぶたで学ぶ農業用水
農研機構農村工学研究部門 新村麻実
<https://youtu.be/ByN1E1X1szQ>
優秀賞:奄美群島 沖永良部島
studio GHIKLI
<https://www.youtube.com/watch?v=YkaRDwJdESI>

新刊「改訂6版 農業農村工学標準用語事典」の発刊

農業農村工学会では、創立90周年の記念事業として、「改訂6版 農業農村工学標準用語事典」を2019年8月27日に出版いたしました。

	会員価格	非会員価格
定価	3,700円+税	4,500円+税

図書の購入方法

I. 個人・法人の場合(賛助会員を除く)

以下のいずれかによる代金先払いをお願いします。または代金引換をご利用ください。

- ① 郵便振替: 郵便局の払込取扱票の通信欄に図書名・冊

数・送付先・担当者名・連絡先をご記入ください。

振込口座番号:00160-8-47993 加入者名:公益社団法人 農業農村工学会

- ② 現金書留: 図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文書を同封してください。
 - ③ 代金引換: 図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailかFAXでお送りください。別途、代引手数料と送料の実費がかかりますので担当者からご連絡いたします。
- II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合
図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文

書をE-mailかFAXでお送りください。

Ⅲ. 送料

1冊200円, 2冊400円, 3冊以上600円

問合せ先 (公社)農業農村工学会 図書係

E-mail: suido@jsidre.or.jp

学生会員入会時の特典

～新刊の用語事典がセットで従来価格据置きです！～

農業農村工学会では、将来を担う若い方達が早くから学会活動に参加することを通じて、よりよく社会に貢献できる環境づくりを目指しています。その一環として、学生の方々が少しでも入会しやすいように、学生会員入会特典を設けております。

これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

①ハンドブック3点セット

(ハンドブック+用語事典+初年度会費)

学部生 17,000円 (15,750円)

大学院生 19,500円 (16,750円)

②必携3点セット (必携+用語事典+初年度会費)

学部生 7,000円 (5,750円)

大学院生 10,000円 (7,250円)

③2点セット (用語事典+初年度会費)

学部生 5,000円 (3,750円)

大学院生 8,000円 (5,250円)

()内の金額は、10月1日以降(半期)入会の場合。

なお、用語事典を購入した方のうち希望者には、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを後日提供する予定です。

ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック

必携：資格試験のための農業農村工学必携(第二版)

用語事典：改訂6版 農業農村工学標準用語事典

問合せ先 (公社)農業農村工学会 図書係

E-mail: suido@jsidre.or.jp

若手研究者育成のための「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

学術基金は、農業農村工学の学問・技術に関する研究及び関係諸活動に経済的援助をし、わが国の農業農村工学の新たな発展に資することを目的として、継続してきました。しかし、大学改革が進められている現在、若手研究者等の研究環境は非常に厳しいものがあります。研究費の削減は、人材の育成にも大きな影響を与えています。そのため、学会では、2019年度より学術基金制度の拡充による新技術の開発と人材確保・育成を進めています。拡充内容としては、①ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進、②大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進、③①、②以外の分野及び学際的分野に関する調査・研究の推進、④顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進を加えて、より具体的に学術基金の枠組みを創設しました。

2019年度の実績では、8グループに対して、総額205万円の支援を行っていますが、拡充部分は法人からの寄附が大きな原

動力となっています。

なお、学会は公益法人であり、寄附をした法人に対しては、一般寄附金の損金算入限度額とは別に、別枠の損金算入限度額が設けられており、税制上の優遇措置が受けられます。

つきましては、研究者の厳しい現状をご理解の上、次代の人材を育成・確保するため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

個人会員一口 5,000円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教

育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信(事前にWeb利用登録が必要)

4. 解答期限

問題掲載号の月から翌月末日まで

(例:学会誌5号掲載の問題は6月末日が解答期限)

5. 取得できるCPD単位

10問正解で2cpdを、7~9問正解で1.5cpdを自動登録(正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません)

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

2021年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2021年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業(水利)施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠(造形美、用の美、融合の美)とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業(水利)施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など:現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第89巻(2021年第1~12号)

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙一フォトペーパー/滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4サイズも含まれます。なお、六つ切りは203×254mm、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき5MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 春季 2020年6月30日

夏季 2020年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りません。

6. 審査 審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第89巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2021年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History(表紙写真由来)」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者には、被写体の説明文(500字程度)をご執筆いただきます。また、ご希望の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History(表紙写真由来)」にご執筆いただくことができます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料(1点につき1万円)をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 著作権・出版権

採用作品の使用権および出版権は(公社)農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)が採用の条件となります。

また、被写体の肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/format/>)より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
 (公社)農業農村工学会
 農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494
 E-mail : henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/>)

journal/)に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌第 88 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A 4 判 1,500 字以内)
第 88 巻第 6 号 農業水利施設の補修工法選定上の課題 (仮)	終了
7 号 九州・沖縄の多様性と農業農村整備 (仮)	公募なし
8 号 「多様な主体が住み続けられる農村」の振興 (仮)	終了
9 号 農業用ため池の持続的な保全管理手法 (仮)	終了
10 号 高品質化・高収益化のための水管理・灌漑技術 (仮)	終了
11 号 農業水利施設における外来生物対策 (仮)	5 月 10 日
12 号 農業農村工学分野の海外社会実装事例—中村 哲医師を偲ぶ— (仮)	6 月 10 日
第 89 巻第 1 号 農業農村工学における ICT 利活用の現状と将来展望 (仮)	7 月 10 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
 (公社)農業農村工学会
 農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
 TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494
 E-mail : henshu@jsidre.or.jp

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

第 88 巻第 11 号テーマ「農業水利施設における外来生物対策」(仮)

外来生物は、生態系に深刻な影響を及ぼす驚異として、国際的には平成 4 年の国連環境開発会議において生物の多様性に関する条約が採択されました。わが国では生物多様性の保全と持続可能な利用に関する国の基本的な計画である「生物多様性国家戦略」が平成 7 年に策定され、4 度の見直しにより現行は「生物多様性国家戦略 2012-2020」が平成 24 年に策定されています。また、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」が平成 16 年に制定されるなど、さまざまな対策が進められています。農林水産省においても平成 20 年 3 月に「外来生物対策指針」を策定、平成 27 年 3 月には環境省および国土交通省と共同で「外来種被害防止行動計画」を策定するなど種々の対応を進めています。

の外来種の侵入による営農活動の阻害などが生じています。

外来生物は、国際化が進み交通の利便性も増して移動・侵入する機会が多くなっています。作物の品種改良や園芸作物としての利用、家畜やペットといった利用目的で積極的に導入されたものが野生化して結果的に悪影響を及ぼすケース等もあり、その侵入を完全に防ぐことは困難です。また、すでに多大な被害を及ぼし、根絶が不可能なほど定着してしまっている種や事例も見られます。

外来生物の影響は単に生態系へ影響を与えるのみならず、さまざまな被害が生じる恐れがあります。農業においては食害・病害・交雑・競争による作物への影響のほか、水路やため池等の水利施設への繁茂・定着による通水障害や水質悪化、耕地へ

外来生物の対策には多大な費用・労力を要することもあるうえ、一度侵入されると抜本的な対策は難しく、施設の特長や財政状況といった地域の実情がある中、可能な範囲で個々に対応している実情があります。

そこで、本小特集では農業水利施設に影響する外来生物に関する新しい知見や対策技術、効率的・継続的に実施可能な対策事例など、有用な情報を共有すべく、幅広い方からの報文を募集します。

第 88 巻第 12 号テーマ「農業農村工学分野の海外社会実装事例—中村 哲医師を偲ぶ—」(仮)

2019 年 12 月中村 哲医師が、無念にもアフガニスタンで心ない凶弾に倒れました。中村医師は「百の診療所よりも 1 本の

用水路を」との意思で、わが国の古来の灌漑技術の粋をアフガニスタン西部に惜しみなく投下しました。中村医師だけではな

く、多くの学会員や関係者が海外で、特に発展途上国で農業農村工学技術の社会実装をはかり、わが国だけではなく、現地での多くの業績が強く記憶に残っていると考えられます。また現在も世界中でその努力が継続されていると思います。

中村医師だけではなく、たとえば杉山龍丸氏は、自身の財産をなげうって、インドの緑化に精進し、インドでは「グリーンファーマー」として名をはせ、インドでは最も有名な日本人の一人です。このようにわが国の農業農村工学技術はわが国だけではなく、世界にも実装され、食料生産などそれらの国の持続

的な発展に大きく貢献している事例も少なくありません。

今回の小特集では、中村医師を偲びながら、農業農村工学技術に関して、世界で我々の先人がなした業績を共有しようと考えました。また、現在、世界各地で行われているさまざまな活動についても情報を共有することは、今後の学会員の活動、特に海外への技術移転、普及・定着や今後の国際協力についても有益であると考えました。学会員のさまざまな観点や地域からの情報提供など関係する多くの投稿を期待します。

第89巻第1号テーマ「農業農村工学におけるICT利活用の現状と将来展望」(仮)

ICT(情報通信技術)の発展に伴い、IoT(Internet of Things)、ビッグデータ、ロボット、人工知能(AI)などに關する新たな科学技術の進展が社会の課題解決と経済成長に大きな役割を果たすことが期待されています。農業分野では担い手の減少や高齢化の進行に伴う労働力不足と平均経営耕地面積の拡大が大きな課題とされており、農作業の省力化や農業従事者の負担軽減を目的に、ICTや人工知能(AI)などの新技術によるスマート農業の研究開発および現場への実証・普及や環境整備への取組みが注目されています。たとえば、無人飛行機(Unmanned aerial vehicle: UAV)を活用した農地・施設情報の可視化やAI技術を応用した画像診断による施設の機能診断、IoTを活用した水管理の自動化・効率化などの新技術開発

が進められており、水管理や営農のほか、施設の保全管理などさまざまな分野で高度化・省力化が推進されるものと考えられます。2019年度には、農林水産省がスマート農業の本格的な現場実装を目的とした「農業新技術の現場実装推進プログラム」を公表するなど、早急な開発および普及促進が期待されています。

ICTに関連したテーマについては、これまでに、第86巻第3,4号などで小特集を企画してきましたが、ICT技術の進歩はめざましいものがあります。このため、本小特集では、再度、農業農村工学におけるICTの利活用に関する取組み事例や課題、最新の技術開発や成果、さらに将来的な展望などについて、広く報文を募集いたします。

農業農村工学会論文集投稿の手引きの一部改正

論文集企画・編集委員会

この度、論文集企画・編集委員会において論文集投稿の手引きの改正について検討し、その改正案を定期刊行物委員会にてご審議いただき、2019年3月16日の理事会に報告いたしました。

改正の要点は、下記の「原稿修正の再提出期限の短縮化(6カ月→3カ月)」および「研究ノートの拡充(2ページ→4ページ)」の2点です。そのほか、情勢の変化等に対応した字句修正を行いました(下線が変更部分)。

(1) 主要な改正1

「4. 原稿の受付と投稿原稿の取扱い

…… [略] ……原稿の修正を著者に依頼した場合、返稿後3カ月以内に再提出されないときは、新規投稿扱いとする。」

なお、運用は以下のように「8. 修正投稿の方法 8.2 投稿手順」に別途記載しました。

「…… [略] ……提出期限は原則として1カ月以内とする。なお、特別な理由によりこれを延長する場合には、企画・編集委員会(16. 問合せ先)の了解を得た上で、最大3カ月まで延長することができる。」

(2) 主要な改正2

「5. 投稿の種類と内容 5.4 研究ノート

…… [略] ……ページ数は組上がり2~4ページとし、超過は認めない。」

なお、13.1 掲載料は、変更しません。

以上をご確認の上、投稿をお願い申し上げます。改正した投稿の手引きは、本誌87~91ページ、または学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/ronbun/>)をご覧ください。

会員の皆様のご理解をお願いいたします。

農業農村工学会論文集におけるコレスポンディングオーサーの記載

農業農村工学会論文集は、現在コレスポンディングオーサーを記載するシステムになっております。投稿される皆様に改めてご案内申し上げます。農業農村工学会論文集投稿の手引き(平成27年3月16日改正:第236回理事会報告)の「6.2 投

稿手順」に「⑩追加投稿情報(会員番号、コレスポンディングオーサー等)の入力」の記載があります。

また、投稿システムの著者マニュアル(Ver.15.0~、2018年7月改訂)に「3-6 追加登録情報を入力する」がありますのでご

確認ください。さらに、論文集の完全版下原稿（邦文）の作成例 Ver.5 などにも記載例が示されていますので、併せてご確認ください（学会ホームページ http://www.jsidre.or.jp/how_to_post/ からダウンロードできます）。

なお、掲載済みの論文に遡って、コレスポンディングオナーの証明を必要とされる方は、農業農村工学会論文集企画・編集委員会（E-mail: ronbun@jsidre.or.jp）まで、ご連絡ください。

**国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2018年7月から2020年6月までの編集事務局**

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2017年のインパクトファクター（IF）は過去最高の1.379となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動物植物の生態系）
- ⑦ 水利施設と減災・防災（施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など）
- ⑧ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑨ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）
- ⑩ 水田の多目的利用（田畑転換、施設園芸）
- ⑪ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

また、世界11カ国からEditor（19名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2018年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

- ・ **Editor-in-Chief** : **Dr. Takao MASUMOTO** (Japan)
Faculty of Bioresource Science, Akita Prefectural University, Akita, Japan
- ・ **Associate Editors-in-Chief**
Dr. Seong-Joon Kim
Konkuk University, Korea

- Dr. Chen-Wuing Liu**
National Taiwan University, Taiwan, ROC
- ・ **Editors** 11カ国から19名
- ・ **Editorial Advisors** 29名
- ・ **Chief Managing Editor**
Dr. Kimihito NAKAMURA
Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
- ・ **Managing Editors**
Dr. Eunmi Hong
Kangwon National University, Korea
- Dr. Inhong SONG**
Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University, Korea
- Dr. Chihhao FAN**
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China
- Dr. Kuo-Wei LIAO**
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China
- Dr. Hiroshi IKEURA**
Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan
- Dr. Andrew WHITAKER**
Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Japan

編集事務局（2018年7月から2020年6月まで）

- ・ **Dr. Kimihito NAKAMURA**
Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
Oiwake-cho, Kitashirakawa, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, JAPAN
TEL : + 81-75-753-6156
FAX : + 81-75-753-6476
E-mail : nakamura@kais.kyoto-u.ac.jp
- 投稿先** : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。
- 投稿資格** : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。
- 投稿要領等** : <http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載しています。

発行スケジュール：年4回（オンラインジャーナル）

購読料：正会員・名誉会員 9,000 円＋税

学生会員（院生含む）4,500 円＋税

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先：農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで
 員番号を明記の上、お申し込みください。

第75回中国四国支部講演会ならびに第44回地方講習会の開催（第1報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 支部講演会

開催日：2020年10月22日（木）

会場：高知市文化プラザかるぼーと

〒781-9529 高知県高知市九反田2-1

TEL：088-883-5011 FAX：088-883-5016

※演題等は調整中

2. 情報交換会

開催日：2020年10月22日（木）

会場：未定

3. 地方講習会

開催日：2020年10月23日（金）

会場：高知市文化プラザかるぼーと

※テーマは調整中

4. 問合せ先

※参加申込窓口と原稿提出窓口は別にしています。ご注意ください。

ださい。

(1) 支部講演会・情報交換会・支部講習会 申込窓口・問合せ先

高知県農業振興部農業基盤課 市川、植田、堀尾

〒780-0850 高知県高知市丸ノ内1-7-52

TEL：088-821-4562 FAX：088-821-4567

E-mail：161101@ken.pref.kochi.lg.jp

(2) 支部講演会発表原稿提出窓口・問合せ先

高知大学農林海洋科学部 森 牧人

〒783-8502 高知県南国市物部乙200

TEL：088-864-5131 FAX：088-864-5200

E-mail：morimaki@kochi-u.ac.jp

5. 詳細

支部講演会・情報交換会および地方講習会の詳細については、本誌第6号以降に掲載予定の第2報でお知らせします。